



株式会社不動テトラ

2023年3月期決算説明会

2023年5月30日

イベント概要

[企業名]	株式会社不動テトラ
[企業 ID]	1813
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2023 年 3 月期決算説明会
[決算期]	2022 年度 通期
[日程]	2023 年 5 月 30 日
[ページ数]	40
[時間]	11:00 – 11:46 (合計：46 分、登壇：35 分、質疑応答：11 分)
[開催場所]	103-0026 東京都中央区日本橋兜町 3-3 兜町平和ビル 3 階 第 3 セミナールーム (日本証券アナリスト協会主催)
[会場面積]	145 m ²
[出席人数]	14 名
[登壇者]	3 名 代表取締役社長 奥田 眞也 (以下、奥田) 取締役常務執行役員 管理本部担当 北川 昌一 (以下、北川)

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



常務執行役員 管理本部長

川地 洋治（以下、川地）

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



登壇

司会：ただいまから、株式会社不動テトラ様の IR ミーティングを開催いたします。最初に、会社様からお迎えしているお三方をご紹介します。代表取締役社長の奥田眞也様です。

奥田：奥田でございます。よろしくお願いいたします。

司会：取締役常務執行役員の北川昌一様です。

北川：北川でございます。よろしくお願いいたします。

司会：常務執行役員、管理本部長の川地洋治様です。

川地：川地でございます。よろしくお願いいたします。

司会：本日は奥田社長からお話しいただき、ご説明が終わりましたら質疑応答といたします。それでは奥田様、よろしくお願いいたします。

奥田：奥田でございます。よろしくお願いいたします。本日は、当社の 2023 年 3 月期決算説明会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。また、皆様には日頃から当社の社業ならびに IR 活動にご理解とご協力をいただいています。重ねて御礼申し上げます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

(ご説明資料)

● **2023年3月期（連結）決算説明会**

【目次】

1. 中計進捗状況
2. 全社業績
3. セグメント別業績
4. 中期経営計画2年目の振り返りと3年目に向けて
5. 投資・資本政策
6. 主な完成工事と受注工事
7. トピックス

(ご参考資料)

- **2023年3月期 決算短信（連結）**
- **2023年3月期（連結）決算補足説明資料**
- **CSRレポート**

1

説明に入る前に、お手元の資料をご確認願います。本日使用する決算説明会資料、そして参考資料として決算短信、また決算補足説明資料、CSRレポートを配布しています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

1. 中期経営計画の進捗状況



株式会社 不動テトラ

◆ 中期経営計画（2021～2023年度）の概要

○基本方針

- ①持続的な成長に向けた戦略的投資及び事業領域拡大を促進する
- ②経営理念を基盤としたESG（環境・社会・ガバナンス）経営の実践により社会に貢献する企業グループを目指す
- ③資本コストを意識した経営を実践する

○数値目標（連結ベース）

	中期経営計画 (2021～2023年度)	2021年度の成果	2022年度の成果
業績目標	3か年での営業利益 120億円以上	営業利益 33億円	営業利益 36億円
資本効率目標	自己資本当期純利益率 (ROE) 8.0%以上	自己資本当期純利益率 (ROE) 7.0%	自己資本当期純利益率 (ROE) 7.1%
株主還元目標	配当性向 40%程度	配当性向 44.4%	配当性向 42.2%予定

2

それでは早速、2023年3月期、不動テトラの決算説明会を始めさせていただきます。

昨年度、当社は中計3カ年の2年目を終えました。本中計は、持続的な成長に向けた戦略的投資及び事業領域拡大を促進する、経営理念を基盤としたESG経営の実践により社会に貢献する企業グループを目指す、そして、資本コストを意識した経営を実践する、この三つを基本方針として、現在中計3カ年に取り組んでいます。

2022年度の結果としては、営業利益36億円、ROE7.1%、配当性向は現在株主総会での決議事項ですので予定となりますが、42.2%としています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



2. 全社業績（連結）



株式会社 不動テトラ

当社グループの業績につきましては、
期首手持ち受注高は、674億円（前期比3.7%減）、
受注高は、740億円（前期比15.8%増）と増加し、それに加え下半期の工事進捗の回復もあり、
売上高は、705億円（前期比5.5%増）と増収となりました。
営業利益は、36億円（前期比9.2%増）、
親会社株主に帰属する当期純利益は、22億円（前期比5.0%増）とそれぞれ増益となりました。

(単位：億円)

指標	中期経営計画			実績		
	2021年度	2022年度	2023年度	2021年度	2022年度	計画 2023年度
期首手持ち受注高	700	640	587	700	674	710
受注高	690	724	776	639	740	750
売上高	750	777	809	668	705	730
営業利益	38	39	43	33	36	37
(率)	5.1%	5.1%	5.3%	4.9%	5.1%	5.0%
当期純利益	24	26	28	21	22	23
ROE	8.0%以上			7.0%	7.1%	7.2%

3

業績結果、全社のご説明です。2022年度実績として、受注高740億円、売上高705億円、営業利益36億円、営業利益率5.1%、純利益22億円、ROEは7.1%という結果で終わっています。

2021年度の実績に比べ、受注、売上、営業利益、純利益とも5-15%強の増で、増収増益という結果となっています。ただし、中計では39億円という営業利益を目標にスタートしていますので、若干未達で終わったという結果です。

後ほど各セグメントでご説明しますが、土木事業、地盤事業は目標をクリアする結果となりました。ただし、期初の想定から大きく市場が減少したブロック事業が大幅に計画未達となり、土木、地盤事業でなかなかその分を挽回できずに、計画に対しては少し未達であった状況です。

株主の皆様にもご心配をおかけするといけないという思いもあり、全体的にはそこまで目標に未達という状況ではないとは考えましたが、ブロック事業の市場がかなり悪化していましたので、第3四半期が終わった状況、第4四半期にそのあたりを開示しました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

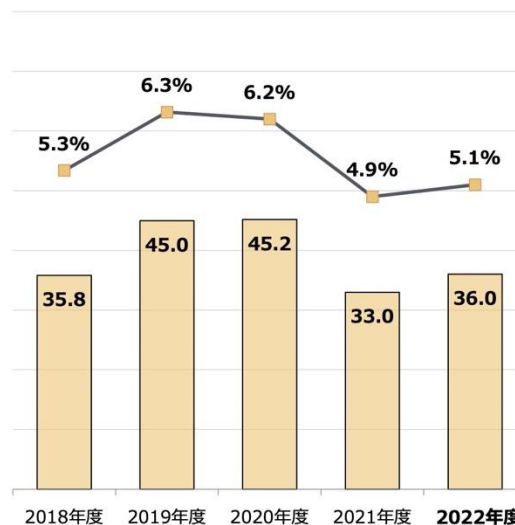
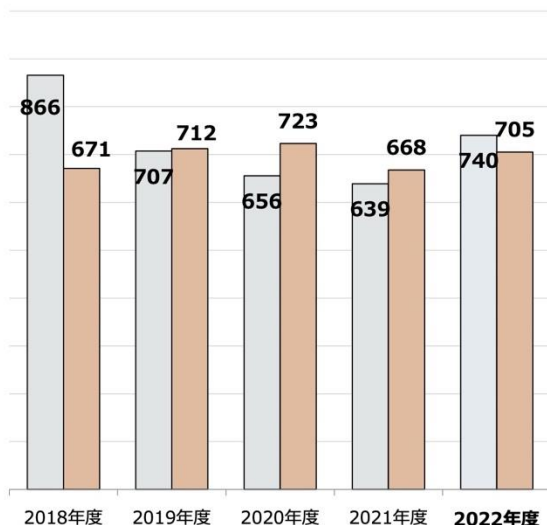


6

2. 全社業績（連結）

□ 受注高（億円） □ 売上高（億円）

■ 営業利益（億円） ■ 営業利益率（%）



4

グラフに、過去5年の受注状況、売上状況、営業利益の状況をグラフ化しています。

今中計のスタートに当たって、若干新型コロナの影響での市場動向と、資機材高騰等の影響もあり、受注競争が激しくなってきた影響もあって、一旦受注が少し下がってききましたが、2022年度は、受注についてはある程度結果が残せた気がしています。

利益面も同じように、2021年度はコロナ禍の影響が遅れて出はじめましたが、前期22年度はブロック事業の影響はあったものの、右肩上がりに増収で終わった気がしています。

サポート

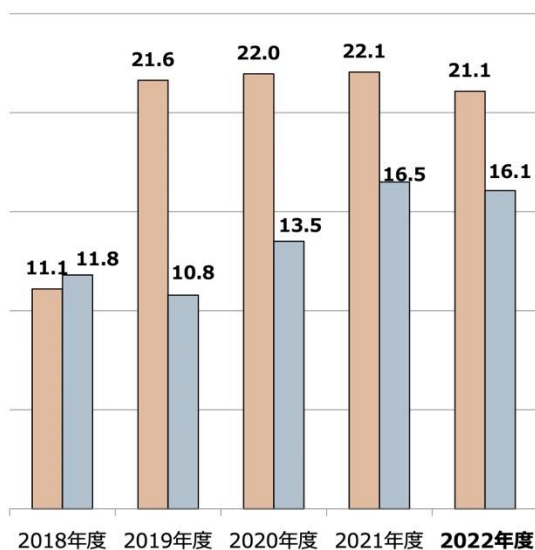
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

2. 全社業績（連結）

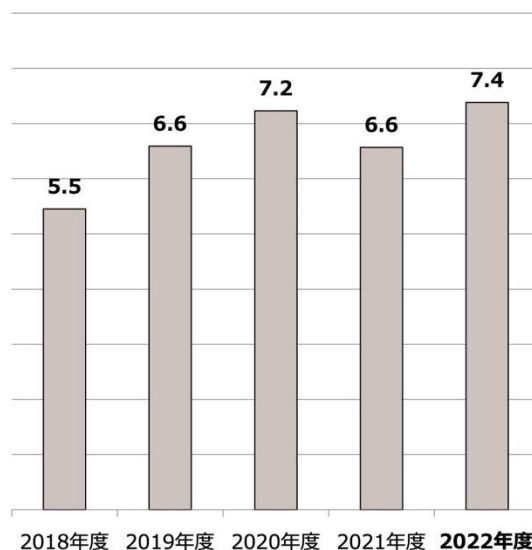


株式会社 不動テトラ

■ 設備投資（億円） ■ 減価償却費（億円）



■ 研究開発（億円）



5

当然、中計の方針の一つでもある事業領域の拡大、あるいは当社の受注競争力を増やし、戦力を強化する意味での設備投資はしっかり継続して実施しています。前中計に比べ、かなり高い水準での投資を続けています。

研究開発についても同じように、競争力の強化と、将来の持続的な成長という意味で、技術力の確保は重大なテーマですので、しっかり投資を続けています。

こういった結果が実は、後の事業でご説明しますが、地盤事業の受注拡大、利益確保、あるいは競争力の中で当社の受注力が上がっているところにつながったと思っています。

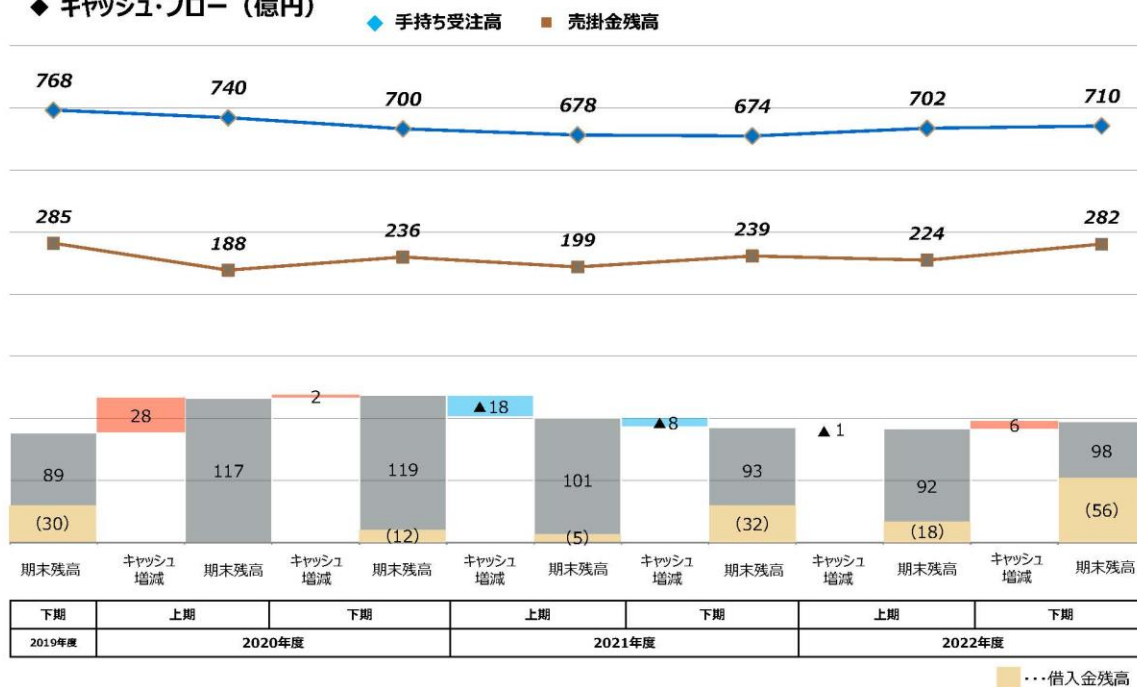
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



2. 全社業績（連結）

◆ キャッシュ・フロー（億円）



6

現在のキャッシュ・フローの状況です。過去3期と比較しています。

約100億円弱の運転資金を、借入を含め、維持しながら運営しています。現在、2022年度末では、売掛金の残高がかなり増えています。手持ち工事もかなり増えていますし、これから入金してくる予定の工事もたくさんありますので、資金需要は少し増加の傾向にあります。

サポート

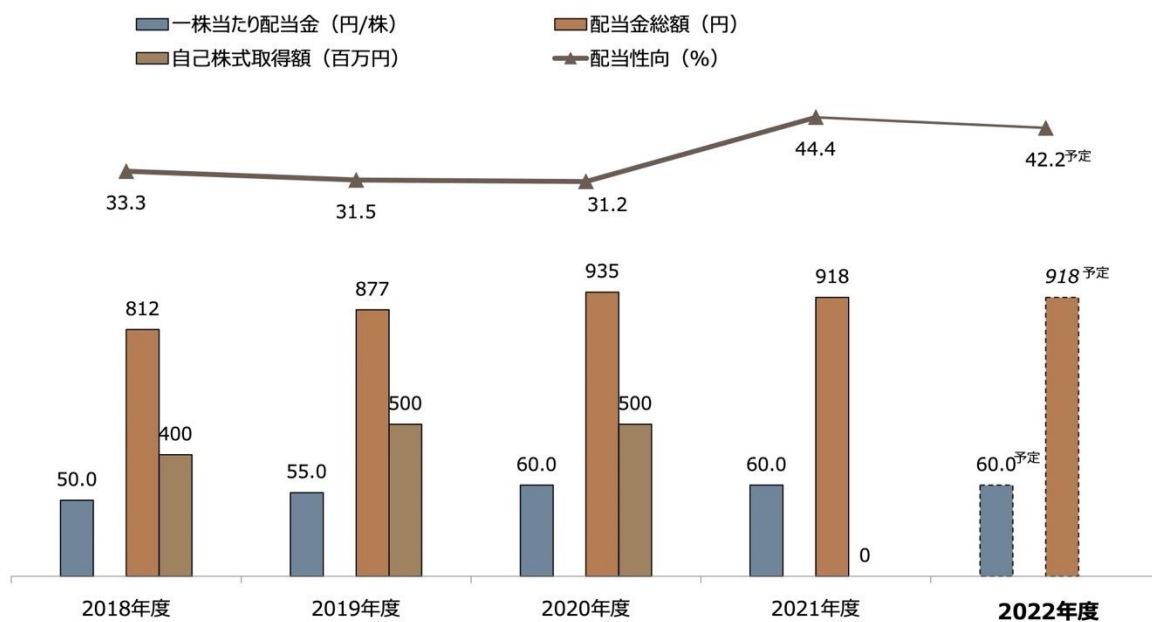
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

2. 全社業績（連結）



株式会社 不動テトラ

◆ 株主還元状況



7

配当に関する過去5年の傾向を示しています。ここ2期は40%の配当性向を方針としていますので、2022年度も、現在予定ではありますが、60円の配当を計画し、42.2%の配当性向を考えています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



3.セグメント別業績

(単位：億円)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	前期比
	通期実績	通期実績	通期実績	通期実績	通期実績	
期首手持ち受注高	578	772	768	700	674	▲26
土木事業	413	600	625	573	531	▲42
地盤改良事業	163	170	143	130	141	12
ブロック事業	2.2	4.6	4.0	4.0	1.7	▲2.3
受注高	866	707	656	639	740	101
土木事業	511	367	305	279	342	63
地盤改良事業	321	305	314	325	375	50
ブロック事業	34.6	36.2	43.6	34.7	27.1	▲7.6
売上高	671	712	723	668	705	37
土木事業	324	342	356	321	322	1
地盤改良事業	314	332	328	316	353	37
ブロック事業	32.1	36.9	43.7	37.0	27.1	▲9.9
売上総利益	108	120	125	110	116	7
(率)	(16.1%)	(16.8%)	(17.3%)	(16.4%)	(16.5%)	(0.1%)
土木事業	32.1	33.6	43.2	32.3	37.0	4.6
(率)	(9.9%)	(9.8%)	(12.1%)	(10.1%)	(11.5%)	(1.4%)
地盤改良事業	62.0	67.9	62.1	57.7	68.4	10.7
(率)	(19.7%)	(20.4%)	(19.0%)	(18.2%)	(19.4%)	(1.1%)
ブロック事業	12.7	16.6	22.0	18.5	8.8	▲9.6
(率)	(39.5%)	(45.0%)	(50.4%)	(49.8%)	(32.5%)	(▲17.3%)
販売費および一般管理費	72.3	74.6	79.9	76.6	80.1	3.5
営業利益	35.8	45.0	45.2	33.0	36.0	3.0
土木事業	11.4	13.0	22.4	9.9	13.0	3.2
地盤改良事業	26.8	32.0	23.1	18.6	26.0	7.3
ブロック事業	1.2	4.9	9.9	5.3	▲4.1	▲9.4

※全社計には3セグメント以外の数値及び連結調整額が含まれるため、3セグメントの合算値と全社計は一致していません。

(土木事業)

受注高は、342億円（前期比22.6%増）と増加したものの、売上高は、工事進捗の遅れもあり322億円（前期比0.2%増）と前期並みとなりました。営業利益は、手持ち工事の採算性改善が進み13.0億円（前期比32.0%増）と増益となりました。

(地盤改良事業)

受注高は、375億円（前期比15.4%増）と増加し、売上高は、353億円（前期比11.7%増）と増収となりました。営業利益は、増収に加えて採算性の高い工事の完成や円安による為替の好影響もあり、26.0億円（前期比39.5%増）と増益となりました。

(ブロック事業)

受注高は、主力の型枠賃貸が災害復旧需要の一巡に加え、資材価格高騰の影響を受けた発注予定案件の数量減や発注時期の繰延が各所で起こるなど、市場環境が悪化し27.1億円（前期比22.0%減）と減少し、売上高は、27.1億円（前期比26.8%減）と減収になりました。営業損益は、減収に加えて型枠稼働率低下に伴う間接原価の負担増により、4.1億円（前期5.3億円の営業利益）の損失となりました。

8

それでは、セグメント別にご説明します。

まず、土木事業です。受注高は342億円、76期に比べ60億円強伸びています。売上高は322億円と、受注が伸びたわりにほぼ同等ですが、これは大規模工事を第3、第4四半期で受注したものの、なかなか着工できておらず、売上が78期以降にずれこむためです。

ただし、選別受注の効果あるいは施工時の創意工夫等によって、売上総利益は11.5%としっかり改善し、37億円という売上総利益を出しています。結果的に、営業利益は13億円で、76期よりも増益で終わりました。

特に、第4四半期に北海道新幹線の中ノ沢高架橋の下部工事で、100億円規模の工事をスポンサーで受注しています。また、第3四半期には、地盤改良と共同営業で同じ北海道新幹線の地盤改良工事も、50億円規模になりますが、4社JVのスポンサーで受注しています。

また、3月にはNEXCO東日本、東北で土工事関係の大型工事2件、また東北の国土交通省のトンネル工事も受注しました。

ですので、受注についてはしっかり最終的に伸ばす形で終わられました。次の年、今期は始まっていますが、かなり繰越工事を持ちながらのスタートになろうかと思えます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

次に、地盤改良事業です。受注高の 375 億円は、ここ 5 年を見ておわかりいただけるように、かなり高い水準の受注を残しています。売上高も 350 億円と、ここ 5 年では最も高くなっています。

中計の方針の中で、しっかり設備の増強あるいは研究開発することで、地盤改良事業についてはかなり減価償却も増えています。また、一般管理費に含まれる研究開発費も増えています。

しかし、しっかり売上総利益で 68 億円、営業利益で 26 億円、そういった投資を将来に向けて実施しながらも、増益で終わることができています。こういった投資の効果が少しずつ利益率、受注面に表れてきていると考えています。この受注売上が増えているのは、当然、海外での受注拡大の成果にも顕著に出てきた結果だと考えています。

次に、ブロック事業です。冒頭お話ししたように、ブロック事業が本当に期初に想定した市場動向、あるいは中計作成時に想定した市場動向に比べ急激に悪化しました。その要因は、一つには災害案件、台風などいろいろな災害に対する復旧工事が昨年度はほぼなく、一巡して終わっていました。

また、かなり大型の事業が、少し進捗が次期にずれてスタートすることで、2022 年度については計画の時点で見込んでいた大型工事での受注がなかなか取り込めませんでした。

もう一つ、これは今までなかったことなのですが、資機材高騰の影響で、ブロックの発注が少し抑えられて、なおかつ発注のロットが小さくなりました。資機材が高くなりますと、例えば防波堤 100m が 1 億円で済んでいたものが、1 億 5,000 万円かかりますので、1 億円しか予算がない場合、極端なことを言いますと 70m しか発注になりません。

そうしますと、私どもの事業はブロックの型枠賃貸ですので、100m 分のブロックが出ると想定していたものが、70m 分しか出件されない工事がかなり続きました。

なかなか期初で読めなかったことですが、その結果として、本当に今までの流れから一転して、受注も当然 27 億円と、前期に比べほぼ 8 億円減っています。売上も 10 億円ぐらい減りました。利益率の高い賃貸事業ですので、大きな影響を受けています。その結果、残念ですが、前期に比べ約 9 億円減益の赤字で終わりました。

地盤改良事業と土木事業がかなり踏ん張り、この影響を少なく済ませることができましたが、今後を考える上で、ブロック事業をどうしていくかというのは、市場の見方を含めて、78 期以降の大きな課題だと考えています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

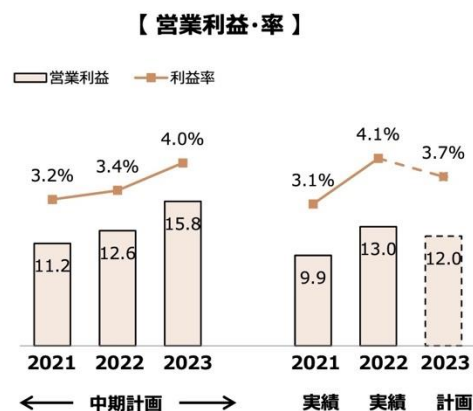
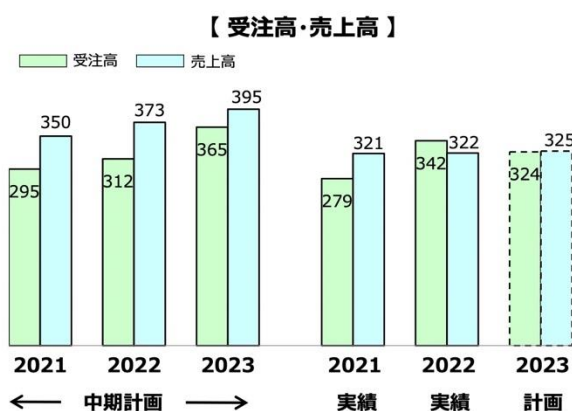


3. 土木事業



事業方針	長期安定性の確保 (受注、利益、人員) ~「守り」から「攻め」へ~
主な事業戦略	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 事業規模の拡大 ▶ 戦略的パートナーシップの構築 ▶ 採用 (人的投資) ▶ 働き方改革 ▶ 採算性の向上 ▶ 研究開発/設備投資 ▶ 教育

◆ 年度別数値目標 (単位: 億円)



ご説明した内容について、それぞれの事業をグラフで示しています。

土木事業は安定して受注、売上、利益も確保できています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

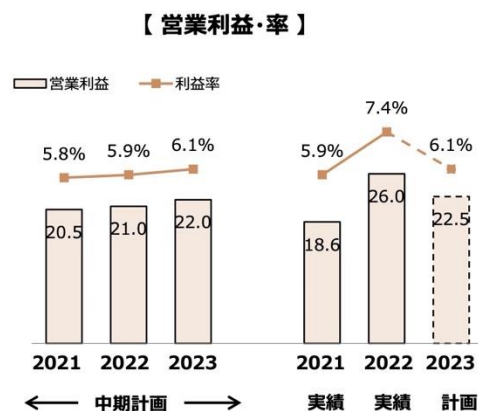


3.地盤改良事業



事業方針	多様化する社会的要求への対応に向け、新技術の開発・導入を軸とした持続的な事業の発展と周辺事業領域の更なる拡大
主な事業戦略	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 主力工法の改善改良による競争力アップと事業量の確保 ▶ 海外事業の安定化 ▶ 新技術・新工法の開発・導入による周辺事業領域の拡大 ▶ 利益体質の更なる向上 ▶ 人材の確保・育成と働き方改革への対応

◆ 年度別数値目標 (単位: 億円)



地盤改良事業は本当に高い水準で、右肩上がり受注、売上、利益も伸びており、施策の効果が表れたと考えています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

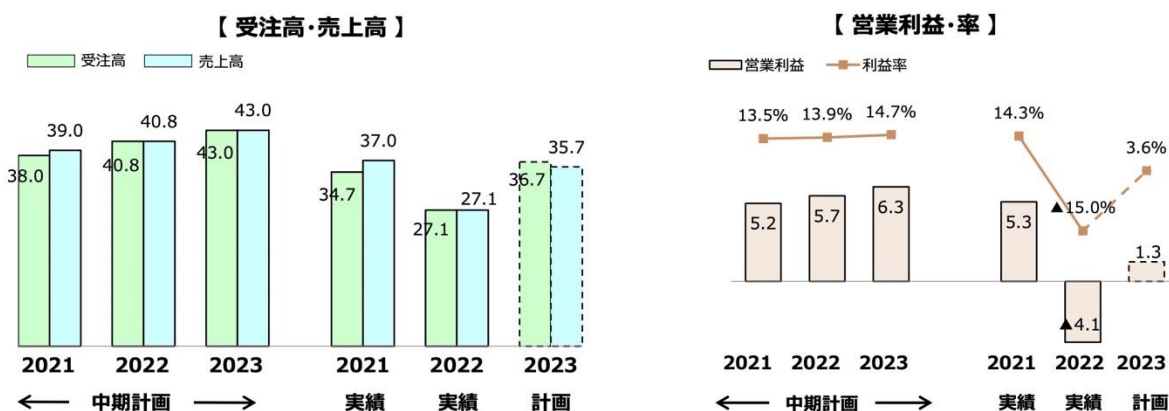


3.ブロック事業



事業方針	技術に裏付けされた製品により安定した収益を図り、ブロック事業のリーディングカンパニーを堅持する。事業フィールド：「防災・減災」「環境」「海外」
主な事業戦略	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 分野別シェアの維持・拡大を図るとともに新市場へ参入し、トップシェアを堅持する ▶ 収益力の向上 ▶ 商品販売事業での長期的収益確保 ▶ 海外展開 <ul style="list-style-type: none"> ▶ ESG経営を意識した企業価値向上への寄与

◆ 年度別数値目標 (単位：億円)



ブロック事業は中計の計画に対して大きく下回り、大きな課題だと、先ほどご説明したとおりです。

ただし、78期については大型の、遅れていたプロジェクトが動き出していますので、その分で少し回復します。ただし、一般市場で資機材高騰等の影響が今期も続くかについては少し読めないところもあります。ですので、77期並みで少し抑えた形で計画しています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



4. 中期経営計画 2 年目の振り返りと3年目に向けて 株式会社 不動テトラ

◆ 中計2カ年状況(営業利益)

	2021年度		2022年度	
	目標	結果	目標	結果
土木事業	11.2億円	9.9億円	12.6億円	13.0億円
地盤改良事業	20.5億円	18.6億円	21.0億円	26.0億円
ブロック事業	5.2億円	5.3億円	5.7億円	-4.1億円
全社計	38.0億円	33.0億円	39.0億円	36.0億円

※全社計には3セグメント以外の数値及び連結調整額が含まれるため、3セグメントの合算値と全社計は一致していません。

◆ 中計2年目の結果

- ・営業利益面に着目すると、土木事業、地盤事業は2022年度目標値（中計策定時）を達成
- ・ブロック事業は事業環境の急激な悪化により損失
- ・全社業績は目標を達成せず

◆ ブロック事業（型枠賃貸事業）の悪化要因について

- ・型枠賃貸市場の急激な落ち込み
 - 建設関連資機材の高騰により、発注ロットが減少、発注量が抑制
- ・期待していた大型プロジェクトの進捗遅延

12

2年目の中計を振り返りますと、結果としては、土木事業、地盤改良事業は中計策定時の年度目標を達成して、増収増益で終わりました。ただし、ブロック事業は事業環境の急激な悪化によって、赤字となり、その結果、ブロック事業のマイナス面を全社の業績では少しカバーすることができず、目標に対しては3億円の未達で終わっています。

ブロックの悪化要因は、先ほどご説明したとおり、発注ロットが減少したこと、それによって発注量が抑えられ、また期待していた大型プロジェクトの進捗が遅れたことです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

4. 中期経営計画 2 年目の振り返りと3年目に向けて 株式会社 不動テトラ

◆2023年度に向けて

①ブロック事業の業績回復

- ・大型プロジェクトの進捗：2023年度より5か年程度の長期安定市場(総額 13～15 億)
- ・型枠賃貸料の設計価格上昇(約20%)による利益率の向上
- ・周辺事業領域への挑戦による市場の開拓(ブルーカーボンなどの研究開発促進・実用化)

②受注、売上、利益の確保

- ・選別受注による利益率の維持
- ・大規模修繕、リニューアル工事への参画、民間市場の受注拡大など、手薄な既存事業領域の強化
- ・海外新規拠点設立など、海外事業の強化
- ・技術開発の促進による受注機会の創出 (ICTの開発促進、除去土壌の減容化処理技術の開発)
- ・DXの推進による受注機会の拡大と生産性の向上

③持続的な企業価値の向上

- ・事業領域の拡大に向けた戦略的投資の実施
- ・サステナビリティ経営の実践による企業価値の向上
 - 多様な人材の確保と人材育成 (中途採用の強化、教育研修の強化)
 - カーボンニュートラルへの対応 (ネガティブエミッション工法の開発などCO₂削減に向けた取り組み)

13

スタートしている 2023 年度に向けて、ブロックの業績回復は大きな課題です。一つの追い風としては、大型プロジェクトで、2023 年度から 5 年かけて約 15 億円の安定的な市場があります。これが、昨年末ぐらいからやっと始まりました。

また、型枠賃貸料の設計価格で約 20%の上昇が認められました。これは利益率に大きく貢献するだろうとみています。

また、一般市場についての回復がどこまで見込めるかもあるのですが、周辺市場へ今持っているブロック、水関係の技術を活かして、ブルーカーボンなどの研究開発をさらに進め、その領域の市場を開拓していくことを、業績回復への対策として考えています。

会社全体としては、引き続き選別受注によって、土木事業、地盤改良事業の利益率は現状維持、あるいは改善していきます。

新規受注から大規模修繕、リニューアルに少しずつ市場が変わってきています。昨年度は、当社も耐震補強や高速道路の床版取替工事を受注し、施工を始めています。また、港湾工事では既設の岸壁の耐震化、あるいは耐震補強も進んでいますので、そういったところへの参画をなお積極的に行っていきたいです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



また、土木事業では民間市場の受注拡大、地盤改良事業は当然のことですが、土木事業においては、手持ちでも100億円規模の産業廃棄物の処理場を民間から受けて施工が始まりつつあります。また、民営鉄道の仕事も少しずつ増えていますので、こういったところで受注拡大していければと考えています。

地盤改良事業が主体ですが、海外の営業強化、事業強化を引き続き続けます。特に、この4月には、バングラデシュに支店を開設しています。強化は続け、また、技術開発の促進あるいはDXの推進によって、受注機会の創出あるいは拡大を進めていきたいです。

3番目に、持続的な企業価値の向上として、本中計では、前中計で愛知県の愛知ベース工業とアメリカのAGIという会社に出資しています。こういった戦略的な投資を、今後も機会があれば積極的に実施したいです。

また、サステナビリティ経営の実践では、多様な人材として、外国人の採用を続け、女性を積極的に採用し、幹部としても活躍しています。現在、女性社員が重機のオペレーターとしても入って、実際に地盤改良の施工機にも既に乗っています。また、毎年3、4人の技術職が既に現場でも活躍しています。

5.投資・資本政策

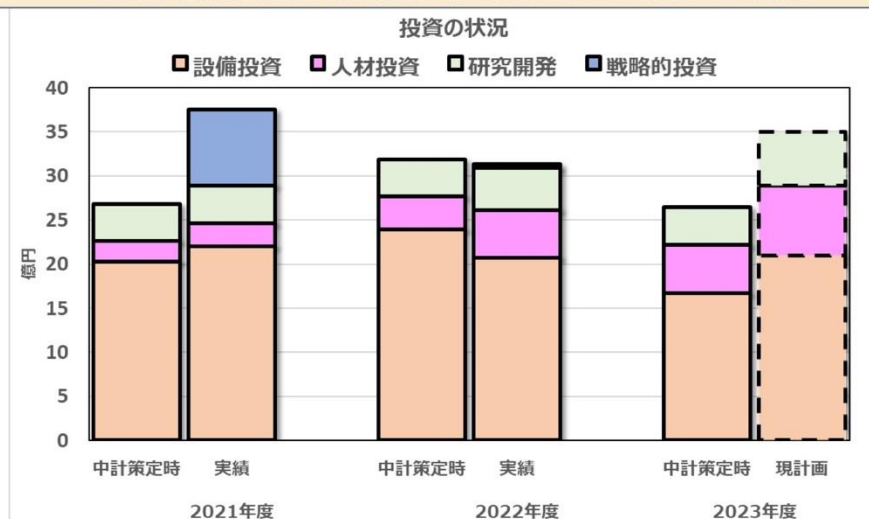


株式会社 不動テトラ

◆投資方針

『成長投資と株主還元を両立』

- ・成長投資に必要な資金は臨機応変に財務レバレッジを活用
- ・余剰資金が発生した場合には、自社株買いなどにより機動的な還元を実施
- ・緊急事態に備え適正な流動性の範囲でオンバランスの現預金等を確保



※ 戦略的投資は計画に含まれておりません
研究開発に人件費は含まれておりません

14

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



成長投資と株主還元を両立していくということで、投資の状況について、策定時と実績をグラフ化しています。

2021年度には、戦略的な投資という面でも大きく投資しています。どちらかと言いますと、計画よりも少し投資面が実際には増えながら、現在2期目の中計が終わった形です。

5.投資・資本政策



株式会社 不動テトラ

◆主な投資

項目	2022年度			2023年度
	主な投資	内容	実績	計画
設備投資	地盤改良施工機	施工機の更新投資ほか	21.1億円	21.0億円
	型枠賃貸	能力増強、更新投資		
	総合技術研究所	太陽光発電設備		
	その他			
人材投資	中途採用	8名の採用	5.4億円	7.9億円
	人材育成	キャリアアップ研修の充実		
	その他	健康経営宣言		
研究開発	AI、ICT関連	ICT施工への対応	4.8億円	6.1億円 ※
	ESG関連技術の開発	カーボンニュートラルへの対応		
	その他			
戦略的投資	営農ソーラーシェアリング	カーボンニュートラルへの対応ほか	-	- ※※
合計			31.3億円	35.0億円

※：研究開発に人件費は含まれておりません
 ※※：設備投資額内に戦略投資分が含まれております

15

まず、投資の主な金額の内容です。2022年度は設備投資に約20億円強、人材投資に5億円強、研究開発に約5億円、2023年度も設備投資には21億円、人材投資には約8億円、研究開発にも6億円を投資予定です。戦略的投資は、期初になかなか金額をお示しできませんが、しっかり投資は続けていく予定です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



5.【設備投資（機能強化）】



◆施工機本体・アースオーガの納入

ICT施工への対応施工機(GeoPilot-AutoPile)及び長尺硬質地盤対応施工機(CI-CMC-HG)として、大型施工機から小型施工機まで合計6台の納入をいたしました。

また主力工法であるSAVEコンポーザー施工機の施工能力UPに向け、新規オーガー4台も追加投資し施工能力の強化を図りました。



アースオーガー(75kW→90kW)



DH758(長尺施工・CI-CMC-HG)



DHJ30(GeoPilot-AutoPile)



SGX120(GeoPilot-AutoPile)

設備投資の主な実施例です。これは、機能強化として、地盤改良の施工機の能力アップと、今まで対応していなかった地盤への対応を可能にする大型オーガの導入として、施工機6台とオーガー4台を、能力の強化で投資しています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

5.【設備投資】

◆総合技術研究所のリニューアル

総合技術研究所は、2018年7月に会社全体の研究所として再編され、その後設備のリニューアル工事を開始し、2022年3月に概ねの工事が終了しました。さらに2022年7月には自家消費型太陽光発電設備の稼働を開始し、研究所内で使用する電力の40%程度を自社設備で賄うことが出来るようになりました。

また、残りの使用電力については再生可能エネルギーを買電しており、研究所内で使用する電力はすべて再生可能エネルギーで賄っております。

本設備は発電のみの機能ではなく、蓄電システムも装備しており、研究所が災害時における対策本部の代替拠点として機能することができます。

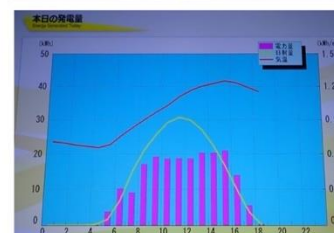
2022年11月には、研究所を対策本部の代替拠点としたBCP訓練を実施して、その有効性についても確認しております。



BCP訓練：代替対策本部
(総合技術研究所)



自家消費型太陽光発電設備



発電状況のモニタリング

17

また、昨年秋にご希望の方に見学していただいた、土浦の総合技術研究所のリニューアルが完成しました。

ソーラーシステムを利用した自家発電も既に開始し、この設備の40%程度は自家発電で賄っています。また、研究開発ですので、当然、カーボンニュートラル実現に向けた一環でもあり、全ての電力を再生エネルギーで賄うため、買電も再生可能エネルギーとしています。

また、蓄電システムも装備し、昨年度はBCPの訓練で初めて、東京本社が全く機能しないことを想定し、研究所に対策本部を立ち上げた形で、全社の機能を維持しながらの有効性を確認しています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

5.【人材投資】



株式会社 不動テトラ

当社はあらゆる人々の活躍の推進のため、働き方改革、多様性の推進、人材育成などについて、様々な取り組みを行っています。

◆「健康経営優良法人2023」認定

社員の健康は企業経営における最優先事項の一つであり、社長を健康経営推進責任者として、健保組合や産業医、労働組合等と連携した健康経営企業内推進体制の整備、健康経営の実践から日本健康会議より「健康経営優良法人2023」の認定を受けました。



◆女性の活躍推進

・「えるぼし」認定

女性の活躍推進に関する取り組みの状況が優良な企業として、厚生労働大臣より「認定段階3（3つ星）」の認定を受けました。



・ネットワークの強化

女性技術者の活動支援や意見交換の実施など、活動の基盤となるネットワークづくりを支援しています。



女性技術者の活動

◆人材育成

豊富な知識と経験、高度な技術を持つ「人材」の育成に注力し、個々人が最大限の力を発揮できる環境整備を行っています。また、全社員のマネジメントスキル向上を目的として各階層に応じた継続的な研修体系に基づき、教育研修を行っています。



教育・研修活動



新入社員特別研修

18

人材投資では、健康経営優良法人 2023 の認定を受けています。また、女性活躍推進えるぼし認定も引き続き受けています。

人材育成という形で、女性技術者のネットワークの強化等にも努めながら、人材にはしっかりと投資を続けていくつもりです。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



5.【研究開発】



◆研究開発と知的財産について

部門	主な研究テーマ	2022年度特許 新規出願件数	2022年度特許 新規登録件数	累計特許 保有件数
総合技術研究所	■ 海底鉱物資源の揚鉱技術の研究	5	2	6
	■ グリーンインフラを用いた海岸保全技術の研究			
	■ CO2による土壌の改良に関する研究			
土木	■ 除染土壌の減容化処理技術の開発	1	2	46
	■ ICT施工に関する管理システムの開発			
地盤	■ 地盤改良のICT生産性向上に関する技術の開発	6	28	205
	■ 環境負荷を低減した地盤改良技術の開発			
	■ カーボンニュートラル対応技術の開発			
ブロック	■ 数値解析に基づく波浪と構造物の相互作用の研究	2	2	22
	■ ICTを活用した生コンクリート打設機の開発			
	■ 消波・根固ブロックによるブルーカーボンに関する研究			
全社累計		14	34	279

※総合技術研究所単独の集計は2020年度より開始

次に、研究開発です。取得している特許、あるいは出願して新規に登録した特許数を示しています。現在、累計で約 280 の特許を保有しています。

一番多いのは地盤事業です。毎年少しずつ年度の登録が減っていたのですが、ここへ来てしっかりと新しい特許の申請あるいは登録認可され、登録が増えています。

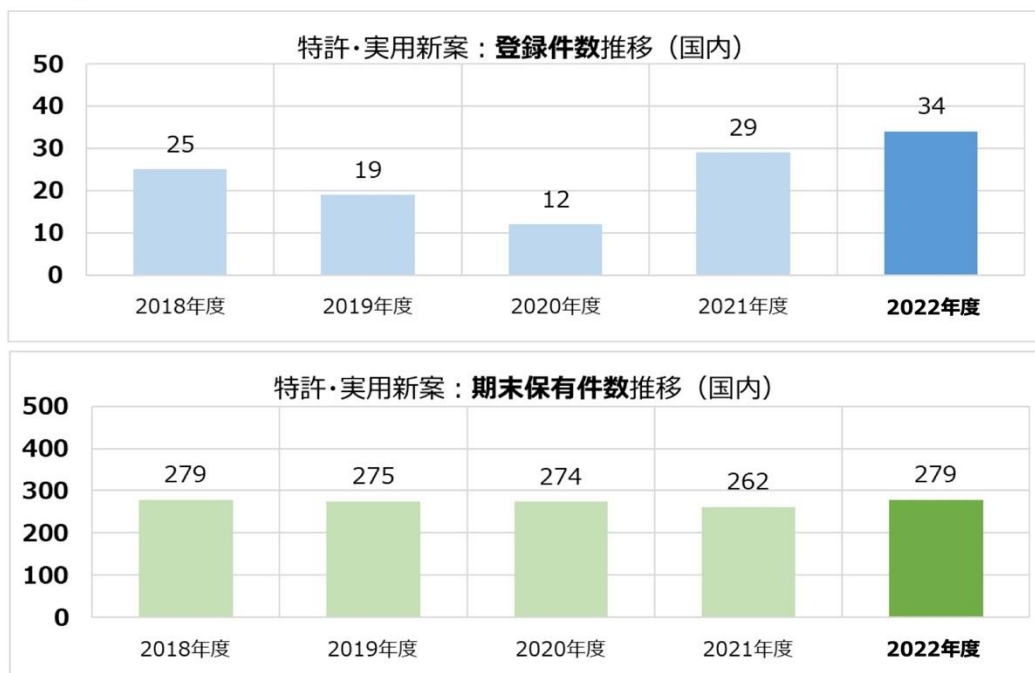
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

5.【研究開発】



◆研究開発と知的財産について



20

全体としては、古くなった特許を廃棄する関係もありますが、約 280 の特許を保有している状況です。

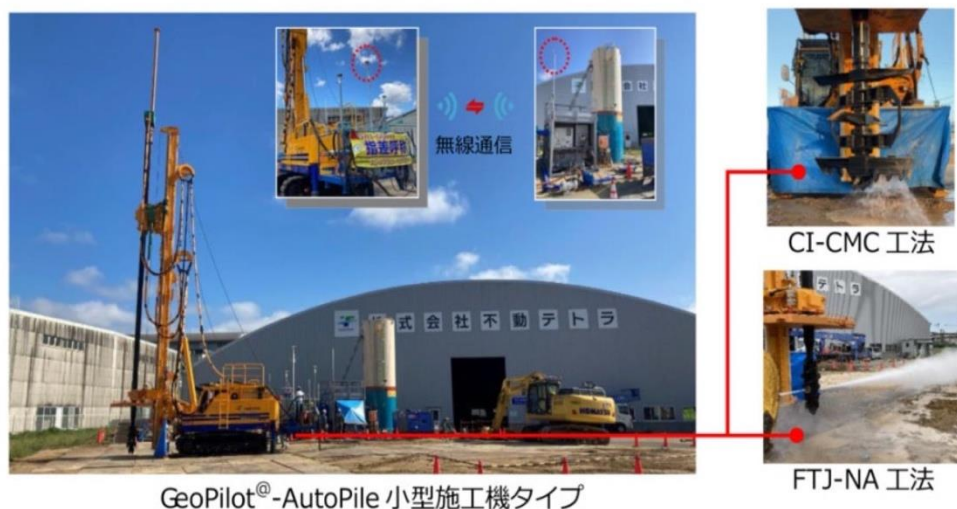
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

◆GeoPilot®-AutoPile (地盤改良工法の自動打設システム)

今回開発した小型機タイプは機械攪拌式深層混合処理工法(CI-CMC工法)に加えて、業界で初めて高圧噴射攪拌工法(FTJ-NA工法)の自動化施工を実現しました。

これにより、狭隘地施工や地中構造物への密着施工など難易度の高い工事においても自動化施工による省力化が可能になります。



21

研究開発の中で少し特殊なものとしては、小型施工機の機械攪拌式深層混合処理工法の自動化施工に加え、実は高圧噴射攪拌工法の自動化施工も実現しました。業界では最初の自動化施工だと自負しています。

また、こういったものが自動化施工できることによって、狭隘地などのなかなか作業が難しいところへの適用も可能になっています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

5.【戦略的投資（カーボンニュートラルへの取り組み）】



株式会社 不動テトラ

◆ 営農型太陽光発電（ソーラーシェアリング）

カーボンニュートラルの実現に向けた新たな取り組みとして、福島県内に営農型太陽光発電施設を3か所設置し、2023年3月より稼働を開始しました。

本施設設置の主な目的と期待する効果は以下の通りです。

(1)再生可能エネルギーの普及、電力の自給自足(発電された電力の一部を研究所へ供給する予定)

(2)地域社会への貢献

- ・農業と発電の両立による持続的事業とエネルギーの創出
- ・同地域における休耕地の活用と雇用機会の創出、など



【当社施設】

発電量は3施設合計で約300,000kwh/年



【営農との両立イメージ】

※上記写真は自社所有のものではなく、既稼働施設による一例

22

戦略的投資の一つとして、営農型太陽光発電を福島で開始しました。この3月に、既に稼働を2カ所ですべてしています。目的としては、再生可能エネルギーの普及、あるいは一部を当社の研究所や機械センターに供給することによる電力の自給自足もあります。

また、地域社会への貢献で、福島の震災以降の休耕地の有効活用として、現地の農業の、少しでもお役に立てばと、雇用機会創出などを含めた取り組みを始めました。現在、福島の3カ所で稼働を開始しています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



5.【戦略的投資（海外事業の強化）】



株式会社 不動テトラ

◆バングラデシュに支店開設

2023年4月からバングラデシュ支店を開設いたしました。今後、ODAを中心とした事業への取組を始め、バングラデシュの発展に寄与していきます。



【実績】

▶ダッカ都市交通整備関連事業（2017）

【今後見込まれる事業】

▶ダッカ都市交通整備事業

▶バングラデシュ南部再開発事業
（港湾・道路等）



液状化対策として採用されたサンドコンパクションパイル工法（バングラデシュ/2017年）

23

また、戦略的投資の一環としての海外事業の強化では、ベトナムのホーチミン、インドネシアのジャカルタに続き、この4月にバングラデシュ支店を開設しました。

バングラデシュではもう6年前に、実は地盤改良の施工をしています。引き続き、ダッカ都市交通整備事業や、バングラデシュ南部再開発事業など、かなりの引き合いをいただいています。既に1件受注して、社員が乗り込んでいます。

支店を開設することによって、現地での職員の採用、あるいはいろいろな意味で協力していただける会社を登用していく意味でも、大きな役割を果たすと思います。支店を開設したジャカルタでも、現地企業とタイアップしながら、現在2件を受注して、社員が乗り込んで、施工が始まってきています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

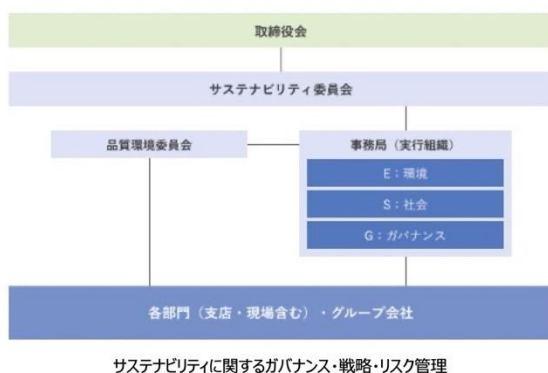


5.【カーボンニュートラルへの取組み】

◆気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）の提言への賛同、情報開示

当社グループは、持続可能な社会環境の総合的な実現に資するという考えのもと、気候変動を含む環境課題への対応を重要な経営課題の一つと捉え、その重点課題への取組みとして、CO₂排出量(Scope1+2)を2050年までに実質ゼロを目指し活動を継続します。

・サステナビリティ委員会設置



・指標と目標

	指標	基準年	目標年	目標
CO ₂ 削減目標	Scope1・2削減率	2020年	2030年	▲30%
		2020年	2050年	▲100%
	Scope3削減率	2020年	2030年	▲10%

Scope1：自社事業から直接的に排出されるCO₂排出

Scope2：他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出

Scope3：Scope1、Scope2以外の間接排出（事業者の活動に関連する他社の排出）



※TCFD：気候関連財務情報開示タスクフォース (Task Force on Climate-related Financial Disclosures) の略称。

カーボンニュートラルへの取組みを各社で始めています。TCFDの提言への賛同で、当社の経営課題の重要な一つである、CO₂排出量を2050年までに実質ゼロを目指す活動を、目標数値として掲げて開示し、取組みを始めています。

また、昨年度にサステナビリティ委員会も既に設置し、ガバナンス・戦略・リスク管理を進めながら実施しています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

6.主な完成案件-土木事業

◆令和3年度東広島バイパス 瀬野西IC第4改良工事



事業主体：国土交通省中国地方整備局
施工場所：広島県広島市

◆令和3年度下関港（新港地区）岸壁（-12m）築造工事



事業主体：国土交通省九州地方整備局
施工場所：山口県下関市

25

主な昨年度の完成案件は、土木事業で2件、国土交通省の東広島バイパスの改良工事と、国土交通省の下関港の新港地区の岸壁築造工事があります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

6.主な完成案件-地盤事業



株式会社 不動テトラ

◆R4年度中央防波堤外側外貿 コンテナふ頭岸壁地盤改良工事 (その1) ~ (その4)



事業主体：東京都
(元請会社：新日本工業(株)、五洋建設(株)、
みらい建設工業(株)、オリエンタル白石(株))
施工場所：東京都大田区

◆鳴門市・北島町共同浄水場整備事業 地盤改良工事



事業主体：鳴門市 (元請会社：(株)大林組)
施工場所：徳島県鳴門市

26

地盤改良事業では、東京の中央防波堤外側外貿コンテナふ頭岸壁地の大規模な地盤改良工事を完成させています。これも、当社の特許工法である JACSMAN という工法が採用されており、自社で施工しています。また、鳴門市での浄水場整備事業の完成工事を載せています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



6.主な完成案件-ブロック環境事業

◆令和3年度名古屋港新土砂処分場 ブロック製作工事



事業主体：国土交通省中部地方整備局
施工場所：愛知県弥富市

◆令和3-4年度 国道55号 奈半利防災工事



事業主体：国土交通省四国地方整備局
施工場所：高知県安芸郡奈半利町

27

ブロック事業としては、名古屋港新土砂処分場の大規模なブロック製作工事と、国道55号、高知県での防災工事が完成しています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

6.主な受注工事



株式会社 不動テトラ

工事名称	事業主体	施工場所
北海道新幹線、中ノ沢高架橋	独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構	北海道山越郡長万部町
国道349号 丸森第2号トンネル工事	国土交通省東北地方整備局	宮城県伊具郡丸森町
東北自動車道 栗原インターチェンジ工事	東日本高速道路株式会社	宮城県栗原市
令和4年度 横浜港本牧地区岸壁 (-16m) (改良) 他改良等工事	国土交通省関東地方整備局 (元請会社: 東亜建設工業株式会社)	神奈川県横浜市
令和4年度下田港防波堤(西)E区基礎工事	国土交通省中部地方整備局	静岡県下田市
碧南火力発電所 石炭灰埋立工事 (その3)	株式会社 J E R A	愛知県碧南市
大正区船町2丁目 (F-7) 堤防補修工事	大阪市	大阪府大阪市
河北潟放水路防潮水門建設工事	農林水産省 (元請会社: 清水建設株式会社)	徳島県板野郡北島町
令和4年度糸満地区岸壁(-7.0m)本体工事	水産庁	沖縄県糸満市

28

また、受注工事も主だったものを挙げました。先ほどもご説明した、新幹線の中ノ沢高架橋、長万部の工事は、JV のスポンサーで 100 億円規模の工事を受注しています。

東北の国土交通省のトンネル工事、NEXCO のインターチェンジの工事。地盤で国土交通省の下請け工事になります本牧地区の岸壁の再改良では、30 億円規模の地盤改良を現在、施工しています。

また、民間の碧南火力発電所の地盤改良や、沖縄の水産庁の糸満地区岸壁工事を、主な受注として挙げています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



「担い手教育活動」における現場見学会の実施

2022年6月に令和3年大分港(大在西地区)岸壁(-9m)地盤改良工事(第2次)にて、大分工業高等専門学校(大分工業高等専門学校)の学生44名(2年生40名、卒業研究生4名)、教員5名の計49名を対象に現場見学会を実施しました。

今回の現場見学会は、土木業界の将来の担い手確保の一助として学生に海上工事に興味をもっていただくことを目的とし、現場で活躍する船舶・機械や施工に携わる人の姿を実際に目にしてもらう機会を設けたものです。参加した学生44名のうち女子学生が19名、視察に訪れた10名以上の発注者にも女性職員がおり、建設業に興味を持つ女性の増加を改めて実感しました。

●参加学生からの感想(抜粋)

・移動する船から見たCDM船の大きさに驚いたが、機械化が進んでおり、少人数で運営していることに更に驚いた。

・卒業研究のテーマ、大学への編入学、その先の就職に対して貴重な体験になった。

・消波ブロックの体験では置き方や置く場所で波消し効果が大きく変わることがとても印象深かった。

・今後講義を受ける地盤工学や水理学の大切な知識や情報が得られた。

・建設業への関わりにおいて、発注者(公務員)・設計会社・施工会社等があり、女性の活躍する部門・部署が色々ある事を知り、建設業への興味をもった。



29

最後に、トピックとして、大分港で昨年、地盤改良工事を直接国交省からいただいて施工してまいりました。そこに、学生さん44名に見学に来ていただいています。なんと、その中の19名が女性の工業高等専門学校生で、将来建設業あるいは役所、コンサルに進まれる方に参加していただいて、見学会を実施しました。

また、発注者の見学会も実施しましたが、女性職員が多数参加され、本当にこういった見学会をして、建設業を理解していただく意味があるかと思います。ここに感想を少し載せています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

7.トピック -2 事業規模拡大への投資



株式会社 不動テトラ

東京機械センターの建替え、耐震化

東京機械センターの第1工場の建替え、事務所棟・第2及び第3工場の耐震化工事が完了しました。

第1工場建替えの主な目的と期待する効果は以下の通りです。

- (1) 耐震化実施による社員の安全確保、巨大地震発生時の事業継続性の確保
- (2) 水害対策実施による社員の安全確保、水害発生時の事業継続性の確保
- (3) 作業効率改善



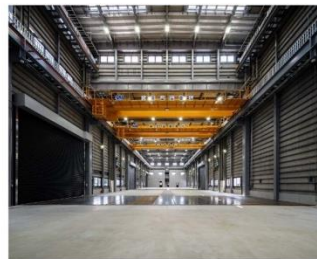
第1工場全景



第1工場正面



第1工場
(太陽光パネル等)



第1工場内部

30

また、東京機械センターは、何回かご報告したのですが、全て完了しました。建替えと耐震化です。巨大地震が来ても事業性を継続すると、また最近多くなりました大雨や洪水等による水害からも守れるということで、当社の地盤改良の基地ですので、しっかり維持できるように耐震、建替えを完了しました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



ブルーカーボンも、生物多様性も ～港湾構造物の生物共生効果の向上技術 NETISに登録～

これまで港湾構造物に用いるブロックや袋詰石材、被覆石などの消波・被覆材には、大型海藻の藻場形成に特化した技術が追加されてきましたが、大型海藻の藻場形成のみならず、小型海藻の藻場形成や小型底生生物の増殖機能を付加し、設置箇所の環境に合わせ、組み合わせて使用できるようにしました。

その結果、国土交通省が運営するNETIS（新技術情報提供システム）に登録されました。

登録番号:CBK-22005-A

長期間にわたって供用される港湾構造物は、様々な環境の変化にさらされます。

これらの機能が補完しあい、大型海藻の藻場によるブルーカーボン効果と合わせて、生物多様性に富んだ港湾構造物の形成に寄与します。



31

最後に、将来への事業展開あるいは当社の位置付けを少しアピールする意味で、実は既に NETIS に登録されました。

テトラポッドやいろいろなものを使い、自然と共存し、あるいは二酸化炭素の排出を少なくしたり、吸収したりするものを海岸線に使いながら、護岸も防護する形でお使いいただくことができ、社会に貢献できる、こういった技術も PR し、世の中に貢献できればと考えています。

以上、駆け足になりましたが、昨年度の決算報告についてご説明しました。ありがとうございました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

質疑応答

司会 [M]：これから、質疑応答に入ります。

なお、この IR ミーティングは質疑応答部分も含め、全文を書き起こして公開する予定です。したがって、質問の際に所属、氏名を名乗られますとそのまま公開されますので、この点ご注意ください。それではご質問のある方、挙手を願います。

質問者 [Q]：ご説明ありがとうございました。

今の受注高はこれ以上取れない状況なのか、あるいは現水準の受注高をこなせるだけの体制になっているのか、今後の売上等を考える上で、その辺りを教えていただけないでしょうか。

奥田 [A]：まず、受注高という意味では、ここ数年、地盤改良事業の受注がかなり伸びています。これは施工要員という意味での制限と、施工機械と、私どもの場合ほとんどが直接施工となりますので、当然お話がありましたように、施工できる限界はあります。

ただ、協力関係にある協力業者、あるいはそういった形で中途採用を含めて人材もかなり確保していますので、受注という意味では、今 370-380 億円で、4-5 年前に比べ既に 50 億円以上増えています。今のところ、希望ですが、400 億円ぐらいまでは地盤事業に関しては持っていける体制で臨んでいきたいです。

この中に実は、今までなかなかなかった海外で 30 億円ずつぐらい、毎年受注が確保できています。ただし、海外も自社の社員が行きますので、それも先ほどの支店を開設したというお話で、現在、例えばインドネシアの工事ですと、最初にインドネシアで仕事を始めた頃はほぼ全員が社員でした。

ところが、今は現地の企業と企業体を組みながら受注する形をとり、現地の社員がかなり施工管理し、あるいは施工するオペレーターとして現地の方に参画していただいていますので、そういう対策を打ちながら少し事業が増やせてきています。もう一つ、愛知ベース工業を子会社化しましたので、その部分で 20 億円ぐらい、受注も売上も増えてきていて、地盤事業については、確保しながらいけば、まだ受注は伸ばせるだろうとみています。

土木事業はご指摘のとおり、当然、施工管理要員の人員によっての受注制限は受けます。それと、資格がないと受注できないなどもあるかと思えます。ただし、今の受注量は約 320-330 億円で、

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



ここも次期中計の目標としてはもう少し上を目指していますので、中途採用も含め人員の確保を続けています。

ただし、受注がどんどん増えますと、繰越工事が完工しないと、なかなか次の工事に人員が避けられないのは事実ですので、本当に人員の配置とバランスを見ながらの受注になります。ですので、地盤改良事業ほどは、実は人員に余裕がないのは実際のところだと思います。ですから、今受注している320-330億円、それより少し上ぐらいが、今の人員では正直なところ限度かとは考えています。

今、700億円近くの繰越しがあり、土木事業と地盤改良事業で、売上は730億円から700億円ちょっとを目指しますので、まだまだ受注が売上を超えて多い状況が1-2年続き、そこまでくらは受注を伸ばせるということで計画しています。

質問者 [Q] : そうすると、今のところ工事をこなせる体力よりもニーズが多いといえますか、先ほど受注を選別して利益率も上がっているというお言葉もあり、マーケットの規模からしてみたら十分な余裕のある受注で、かつ外注は取れるかもしれないですが、企業体力ぐらいの毎年の売上のこなし方という理解でよろしいでしょうか。

奥田 [A] : そうですね。ただ、かなり設備や研究開発に投資していて、それに見合った当然、新しい市場に少しずつ出ていっていますので、そこについては少し何とか増やしたい思いはあります。ですので、選別受注以外に、少し事業領域を増やす意味での受注は増やしたいと考えています。

質問者 [Q] : もう一つ、事業環境の国土強靱化政策等を見据えとありますが、社長が感じている肌感覚で、今は多分いい環境ではないかと推測します。あと3年、5年、10年というタームで見ると、この十分な受注と工事ができる体制がどのくらい続きそうかという肌感覚でも結構ですが、教えてもらえますでしょうか。

奥田 [A] : 皆さんご存知のように、5カ年まだ継続されています。当然、減災・防災、国土強靱化のための事業は、5カ年が終わった後に政府がどう考えるかもあろうかと思いますが、現在の温暖化、今回もまた大きな台風が来ていますが、そういった自然災害を考えると、こういった面での、われわれが得意とする分野は変わらず、まだまだ当然、市場的に旺盛な事業だと思っています。

ただし、そうは言いますが、公共事業は大きく伸びるとはなかなか思えないと、現状維持しながら、物価に合わせて少しずつ金額的には増えるのかと、長い目ではそういう気はします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



ただし、民間の投資という意味では、エネルギー関係が当然、脱炭素に向かっていきますし、老朽化した民間の施設でコンクリートの構造物は、50年経つと次の改修あるいは新規に移す工事が必要になってきます。

そういう意味で、日本の歴史を考えると、現在、首都高やいろいろな高速の維持補修が盛んに始まっています。民間も続いてどんどん始まると思いますので、特に建築の再開発はどんどん計画も上がってきています。当然、建築物も50年経つと、そういう対策か、再開発を含めた建替えが必要になってきます。そういった市場は増えますので、われわれとしては建築はやっていませんが、特殊な技術をいろいろ持っていますので、そういったところに参画できる技術をちゃんと見極めて、営業展開することで、そこに少し入り込めるかなと考えています。

もう一つは、海外が少しずつ、当社にとっては伸びていますし、まだまだ東南アジアも、アメリカの市場は出っ張り引っ込みはありますが、すごく大きくて魅力です。特にわれわれは一般土木や一般建築をやろうとしておらず、当社の得意な技術だけでの海外展開を考えています。リスクという意味ではかなり抑えながら展開できると思いますので、ここは少し伸びるだろうとみています。

全体でどうかという話になると、10年後はなかなか読みづらいところもありますが、われわれとしてはいろいろなところで少し事業領域を増やしながらか、会社の規模を少しでも成長させ大きくするための施策は既に打ち始めているとご理解いただいたほうがいいかと思います。国全体や建設業界全体でどうかと言われると、なかなか競争は厳しくなると思います。

質問者 [M]：よくわかりました。ありがとうございました。

司会 [M]：以上をもちまして、株式会社不動テトラ様のIRミーティングを終了いたします。本日は皆様、ご参加いただき誠にありがとうございました。

奥田 [M]：どうもありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

